



# 茜雲

大口高校だより

鹿児島県立  
大口高等学校〒895-2511 伊佐市大口里 2670  
TEL 0995-22-1441 FAX 0995-22-9227

## 多くの中学生が大口高校を体験

7月、伊佐市内の中学校3年生の皆さんが、大口高校の授業や部活動を体験しました。まず、7月5日に大口中央中学校、7月10日に菱刈中学校の3年生全員が、本校の授業を高校生と一緒に受けました。この事業は、実際に高校の授業を体験することで、高校受験に対する意識を高めるといふねらいもあり、参加者の中には、「高校の授業はレベルが高く難しかった。今からしっかり勉強しておかなければと思った。」という感想を書いている生徒もいました。

7月31日には、中学生一日体験入学が開催され、伊佐市内外の中学校から約50人の中学3年生が参加してくれました。特設の「日本語の不思議」「微分・積分・いい気分」「あなたの知らない血液型と遺伝子の話」などの授業を興味深く受けた後は、部活動体験。「ぜひ大口高校で野球をやりたいです。そのためには受験勉強を頑張ります。」という参加者もいました。最後は、中学校ごとに分かれて、先輩との交流会。「高校入試に向けてどのくらい勉強していましたか。」「高校で勉強と部活との両立はきつくないですか。」といった質問などが出され、高校生も丁寧に答えていました。



## 「総合的な探究の時間」 最終発表会

7月13日、「総合的な探究の時間」の最終発表会が開かれ、3年生がこれまで取り組んできた活動の成果を発表しました。

加治屋花楓さんと松野有亜さんは、地域の活性化のために企画したダンスイベントについて発表しました。会場の確保や出演団体との交渉、広報の仕方など試行錯誤の連続だったが、周りの大人の方々に助けられて実現できたことなどを報告しました。



## PTA親子ふれあい清掃

8月20日、早朝から多くの生徒と保護者、そして職員が参加してPTA主催の「親子ふれあい清掃」が行われました。

今年も出木場同窓会長からトラックをお借りし、さらに保護者にも軽自動車を出していただき、刈り取った草などを搬出しました。暑い中でも、爽やかなひとときでした。



## 「高校生マルシェ」初参加

8月13日、お盆初日の日曜日で帰省客など多くの人で賑わう鹿児島市天文館のセンテラススクエアで開催された“高校生マルシェ”に、普通高校として初めて大口高校が参加しました。

販売するのは、もちろん大口高校米(マイ)クッキー。開発から製造に携わった3年生の川原咲蘭さんと溝口葉菜さんが張り切って販売しました。

鹿児島市のど真ん中で大口高校と伊佐市を大いにPRしてきました。



## 「1分間動画」完成!

3年生の有志が、大口高校をPRする1分間動画を制作しました。生徒たちの熱意に感動したイーサキングも特別出演してくれました。動画は、大口高校公式HPから見ることができます。



# 「大口高校ふるさと歴史講座」報告その1

大口高校は、大口高校PTA・大口高校同窓会と共催で「大口高校ふるさと歴史講座」という市民講座を開催しました。さらに、伊佐市と伊佐市教育委員会、南九州郷土研究会と伊佐古文書研究会の後援、大口城を愛する会の皆様の協力もいただき、実現に至りました。

募集定員を50人としましたが、募集開始からわずか数日で定員に達しました。年齢層は、中学生から90歳までと幅広い年齢層の方が申し込まれました。多くは伊佐市内の方ですが、湧水町からの受講者も数人おられ、さらには出水市や鹿児島市から毎回駆けてこられる方もおられました。

8月1日の第1回目の講座に先立って行われた開講式では、橋本伊佐市長をはじめ、出木場同窓会長、別府PTA会長からそれぞれご挨拶をいただきました。

「ふるさと伊佐の歴史に関心はあるのだけれども、仕事の都合で受講できなかった。」という方もおられたので、講座の要旨を3回にわたってご紹介いたします。



左から 出木場会長、別府会長、橋本市長

【第1回目】 8月1日(火)18:00~20:00

講師：新東 晃一 先生（南九州郷土研究会会長）

講師の新東先生は、大口高校を昭和41年に卒業され、鹿児島県における考古学を牽引してこられた重鎮です。歴史資料センター黎明館の設立や上野原縄文の森の設立にも尽力されました。県立埋蔵文化財センター次長で定年退職された後も、精力的に研究を続けておられます。現在は、「大口城を愛する会」の会長として、城跡を甦らせて新たな名所にすべく、整備作業に力を注いでいます。



テーマ：「鹿児島の考古学は大口高校から始まった！」

岡山県生まれの木村幹夫先生は、昭和5年3月に早稲田大学文学部を卒業し、4月に旧制大口中学校（現大口高校）に赴任されました。伊佐地方を中心に南九州の考古学研究を行い、その成果を中央の考古学界へ次々と発表し（『考古学雑誌』掲載の「鹿児島県大口盆地の遺跡」など）、「鹿児島県の考古学研究の創始者」と呼ばれています。

当時、大口中学校の校医であった開業医の寺師見國先生は、九州帝国大学医学部を卒業後、大正8年から大口で寺師見國先生を開業していました。木村先生の考古学研究に触発され共同で研究を行うようになり、昭和11年発行の『考古学雑誌』には、共同研究者として名前が掲載されています。

また、京都帝国大学の梅原末治博士からも指導を受け、木村先生が県外に転勤後も一人で研究を続け、昭和18年に著した『鹿児島県下縄文式土器分類及び出土遺跡表』は、「鹿児島県における縄文研究の教科書」とされています。戦後も、医業の傍ら発掘調査や論文発表など考古学の研究を重ね、弥生文化、地下式横穴・地下式板石積石室の総合研究、国分寺研究など全般にわたって鹿児島県考古学会の基礎を作りました。

私は、先達の功績を後世に正確に引き継いでいくため、現在、寺師先生の論文を集成し『寺師見國著作集 南九州の考古学』として出版する準備を進めているところです。

【第2回目】 8月3日(木)18:00~20:00

講師：成尾 英仁 先生  
（鹿児島大学非常勤講師）

第2回目は、講師の中村先生が台風6号で沖縄から帰れなくなったため、第3回目に予定していた成尾先生に急遽お願いしました。

成尾先生は昭和44年に大口高校を卒業され、県立高校で理科（地学）を担当する傍ら地質等の研究を行い、定年退職後は鹿児島大学で非常勤講師として教鞭を執っています。



テーマ：「地層から見る伊佐の土地の歴史（黒曜石、金鉱脈、曾木の滝、薩摩隕石）」

私は、大口高校在籍中は自然科学部に所属しており、星の観察をしたり薩摩隕石について調べたりという高校生活を送っていました。それで、進路を選択する際に石を学べる大学に進学し、地学の教員になりました。

ご存じのように、伊佐は南北に長い盆地状の地形で、中央部を川内川が流れています。この盆地は単に陥没したものではなく、火山活動でできた地形です。また、伊佐盆地を取り囲むように連なる山地は、「肥薩火山岩類」と呼ばれる火山噴出物からできており、その命名者は大口出身の山本敬という岩石学者です。

伊佐地域には、鋭利な石器の材料となる黒曜石が産出される場所が何か所かあります。黒曜石は、流紋岩の溶岩が地表に流れ出て、表面が急に冷やされてできると考えられています。黒曜石の山地は全国に分布していますが、成分を分析すると産地ごとに異なり、黒曜石の分布（流通）を調べると縄文時代の人々の交易の様子などを知ることができます。

金鉱床の成り方も火山活動に関係しています。熱水（温泉水）が様々な成分（金など）を溶かし込み、それが冷却するときに結晶となります。伊佐地域は古くから金鉱脈の開発が盛んで、かつて布計金山や牛尾金山が創業していました。

その他、伊佐市には曾木の滝や薩摩隕石、動植物も貴重なものがたくさんあります。地元の方々がこうしたものに目を向け、その価値を認識して愛着を持っていただければ幸いです。